

令和2年度第2回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会議事録

1 日時

令和2年10月30日（金） 10:00～12:00

2 場所

岩手県庁 5階 5-J会議室

3 出席委員（敬称略）

委員 大平 恭子

委員 竹本 太郎

委員 三宅 諭

委員長 吉野 英岐

委員 若菜 千穂

4 議事

【1 開会】

- ・ 事務局が開会を宣言。

【2 挨拶】

〔岩手県農林水産部農政担当技監〕

本日は御多用のところ、中山間地域等直接支払制度推進委員会に御出席いただき、厚く御礼申し上げます。

また日頃から、本県農業・農村の振興に格段の御支援を賜り、感謝申し上げます。

第1回委員会の時にも挨拶申し上げましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、農業分野においては、牛肉や花の需要低迷により価格が低下したとお話をさせていただきました。その後、Go To トラベルやGo To Eat といった人の流れが出てきたことに加え、牛肉や花の対策も打ち、どちらも一定程度回復してきました。一方で、米は巣ごもり需要により家庭での消費は増加しておりますが、外食産業の動きが鈍くなっており、来年度の米の生産抑制が懸念されております。

本日議論いただく中山間地域についても米は重要な作物であります。県としては、県産米の消費拡大、需要拡大や、首都圏でのアプローチも行っていきたいと思っております。

本日は、これまで現地調査を行っていただきました、いわて中山間賞について、調査結果も踏まえながら授与の適否などを御審議していただくことになっております。

限られた時間ではございますが、皆様の御意見をいただくことをお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

- ・事務局が、委員9名のうち、過半数を超える5名の出席があることから、委員会が成立することを報告。
- ・以降、吉野委員が委員長・議長となり進行。

【3 協議】

(1) 竜ヶ坂中山間地域等直接支払交付金制度取組組織について

- ・事務局が、資料 No. 1 に基づき、いわて中山間賞授与要領について説明
- ・事務局が、資料 No. 2 に基づき、竜ヶ坂中山間地域等直接支払交付金制度取組組織について説明

《質疑等の内容》

[若菜委員] 機械を買って3年目で、まだ取組が浅いという印象。各年度において、どこを整備するか優先順位をつけるなど地域でルール化し、システムチックに取り組んでいくことが必要。これからも、地域で上手にチップパーを使いながら、積極的に取り組んでいくことが必要と感じる。チップパーは集落のものだから、使いたい人に貸し出すなど行い、暮らしのサポートに使用すべきである。地域のための機械であるので、システムチックに利用してほしい。条件の良い地域なので、上手にPR もしながら取り組んでほしい。

[竹本委員] 竹林による問題を解消するために前向きに取り組んでいることが評価できる。竹林自体は未使用資源として、活用されていないということがあるため、今回のように、チップパーを活用して、地域で活用していくことが重要と感じた。住民が一体となって、前向きに考え、取り組んでいる姿勢が伝わってきた。今後の道筋が徐々に見えてきているというところが評価できる。

[大平委員] 賞ということに関して異論はないが、成熟度という観点は、まだ初期段階のため、足りないと感じる。また、未利用資源や、平泉という観光地の中の田園風景や景観という部分で、ポテンシャルが高いと感じた。しかし、中山間地域の中で、維持をするために必要なのはやはりマンパワー。若者と言われる世代層や外からの人材の活用について薄いと感じる。後継者の確保はこれからのことではあるが、風通しを良くし、人を呼び込んでいくことが必要。また、調書には子ども神輿のことが出ているが、現地調査でその話がなかった。竹林整備がメインになってしまったためだと思

うが、世代間交流や地域の未来像に重きを置くならば、現地調査でその話があった方が良かった。

[吉野委員長] ウッドチップperを入れることによって、無秩序に広がっていた竹林を整備し、景観の回復と未利用資源の活用を、この3年で急速に進めたことが評価できる。かなりの急斜面に竹が生えており、労力をかけて切り出し、粉碎機まで運び、さらにそれを散布する。一連の行程は、他の地域にも取り入れることができ、他地域のモデルにもなる。最初は一関で開始し、平泉が導入するに至った。また、集落の目の前には大規模区画の田んぼがある。そこでやれば効率良く稲作ができるところを、中山間地になっているのがこの集落で、棚田がまだ残っており、棚田の維持に相当苦勞していると思う。それでも、地域の維持管理に努め、それとともに、竹林整備や農業生産活動にも取り組んでいただくということで、これからも頑張つて継続してほしい、との思いも込めて、賞を授与したい。事務局には、これら委員の意見を現地に伝えてほしい。

竜ヶ坂中山間地域等直接支払交付金制度取組組織について、いわて中山間賞を授与することを可としてよろしいか。

- ・ 竜ヶ坂中山間地域等直接支払交付金制度取組組織について、令和2年度「いわて中山間賞」の授与が妥当と了承された。

[若菜委員] 公表される資料はこれになるのか。

[事務局] 議事録と資料 No. 1～3 が公表の対象となる。

[若菜委員] 集落の取組はこれだけしか公表されないのか。

[事務局] 中山間賞は、いわて農林水産躍進大会で授与されており、その大会誌に掲載されるが、配布資料の活動のポイントのところだけが掲載される。

[若菜委員] 子ども神輿の部分については、公表資料への掲載は適当でないと思う。また、鳥獣害の被害防止についての記載も、まだ取り組んでいないとのことだったので、記載する場所を考えた方が良いと思う。

[事務局] 意見を踏まえ、その点を考慮して公表する。

(2) 荷軽部集落について

・事務局が、資料 No. 3 に基づき、荷軽部集落について説明

〔三宅委員〕現地調査で気になったが、プレゼンテーションで使っていたスライドが全部1年前のものだった。昨年度作ったものでプレゼンしていたというのは何か理由があるのか。

〔事務局〕確認し、報告する。

〔三宅委員〕どこにポイントを当てればいいのか分かりにくいですが、当たり前のことを地道に行うということの大切さを打ち出しているのかと思う。捉えどころが難しいが、何か一つの取組を押し出すのではなく、多様な広がりを見せており、良いと感じる。「まめぶ部屋」も面白い。

〔竹本委員〕荷軽部は分かりやすく感じた。集落が一体感をもって熱心に取り組んでいる。いろいろな切り口があるが、何より、長く続いているということに意味があると思う。憲章のように、言葉で集落の方向性が整理されており、それに基づいた活動が長年地道に行われている。「まめぶ」といった郷土料理も、年齢層が上がっていくことで失われていくものもあると思うが、そういったものを残していく土壌がしっかりしており、地域の活性化に大切なことだと感じた。

〔大平委員〕中山間賞を、なぜ今まで受賞していなかったのか疑問。過去のストーリーがあって今このタイミング、という部分もあると分かりやすい。紆余曲折はあったが自治会も継続しており、後継者もいる。そういうところにフォーカスを当てたい。だからこそ、グリーン・ツーリズムの取組や「まめぶ」の取組、そういうところで説得力がある。一番評価したいのが、自治会で、年下の人でも長になっても権限を与えてもらえるような、形式化されたものではない、感覚的なものの価値観の共有が、産業や暮らし、コミュニティの中で循環しており、これからの中山間地域の未来像に可能性を見出していると感じる。

〔若菜委員〕現地調査には行っていないが、今回は「まめぶ部屋」で取り上げたわけではないのか。

〔大平委員〕「まめぶ部屋」の活動は取組の一つとして、コンテンツとしてある。

〔事務局〕地域活動が非常に活発で、結束が高まっているところが評価できる。

〔三宅委員〕 集落の人にとっては当たり前のことだから、今まで受賞に上がってこなかったのではないかと思う。

〔事務局〕 荷軽部集落は、昭和 60 年に豊かなむらづくり全国表彰事業で内閣総理大臣賞を受賞しているが、それ以降に、「まめぶ部屋」の活動など新たな取組が加わっている。

〔若菜委員〕 集落全体に賞を授与するのではなく、集落の取組に対して授与したほうがいいのではないかと思う。

〔若菜委員〕 青年会の年齢構成はどうなっているのか。

〔事務局〕 30 代が 7 名、40 代が 7 名の 14 名となっている。

〔三宅委員〕 その人たちが活動しやすいようになっている。「まめぶ部屋」も青年会が中心。

〔吉野委員長〕 「まめぶ部屋」は、元々青年会が運営していた。

〔若菜委員〕 中山間直払を受けていないということだが、理由は。

〔事務局〕 中山間賞授与要領には直払への取組の有無は定めていない。農地が少ないことに加え、草刈作業で財源を確保しており、直払に取り組まなくても運営できている。

〔事務局〕 最初の三宅委員の質問に対する回答であるが、昨年度、久慈市侍浜の地域おこしグループとの交流会があり、その際に使用したスライドであるとのこと。

〔吉野委員長〕 自治会と青年会が両輪となって、人口減少など状況が厳しい中でも活動を継続している。「まめぶ」が有名となり、B-1 グランプリにも出品している。「まめぶ」は、旧山形村の郷土料理であったが、久慈市で売っていくことで、荷軽部の青年会が「まめぶ」を出していく原動力となった。「久慈まめぶ部屋」の名前の由来も、相撲部屋がもとになっており、郷土力士の栃乃花もいる。相撲のパフォーマンスも入れながら、普及してきた。自治会と青年会が両輪となり、地域を支えてきた。荷軽部タイムスを 48 年もかけて 200 号を達成し、現場で盛り上がっている。いまだに方眼紙に直筆で書かれており、あまり見ないスタイルで、愚直に続けているところが評価できる。また、荷軽部は畜産と林業といった、地域の特性にあった農林業が継続されている。今年度、バー

ベキューハウスも建てて、地元の拠点も新たに整備するなど、古くからの活動で実績があるだけでなく、新たなステップにも向かっている。現地調査でも、大勢の方に迎えていただき、地域づくりの姿勢を見せていただいた。ポイントは色々あったが、しっかりとした住民活動を、形を崩さず行ってきたというところだと思う。

荷軽部集落について、いわて中山間賞を授与することを可としてよろしいか。

- ・ 荷軽部集落について、令和2年度「いわて中山間賞」の授与が妥当と了承された。

【4 その他】

- ・ 事務局及び委員から特になし。

【5 閉会】

- ・ 事務局が閉会を宣言。